水産だより 千葉

（発 行 者）
公益財団法人 千葉県水産振興公社
〒260-0013 千葉市中央区中央 3-3-1
TEL 043-222-3181
FAX 043-222-2440

水産振興公社の事業活動

日頃より、公社の活動に御理解・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年度の活動状況を報告します。

栽培漁業の推進に関しましては、ヒラメが109万尾、マダイが118万尾、マコガレイが44万尾、クルマエビが675万尾と計画以上の種苗放流を行うことができました。近年、生産が不調であるアワビにつきましては、計画比8割のとなる見込みです。次年度の配付に向けては、計画を達成できるよう懸命に生産しているところです。

また、ノリ種苗は、カキ殻糸状体完製品18万8千枚、アオノリ母藻6.6kg、ワカメ・ヒロメ種苗種糸1,951mを配付しました。

（特集）ミルクイの種苗生産試験について

東京湾漁業の対象種であるミルクイについて、現在、富津事業所新富支所で種苗生産試験を実施しています。

近年、本県で親貝の入手が課題となっており、今年度、採卵に使用した親貝は10月下旬に愛知県から入手したものです。採卵は11月上旬に行い、ふ化した幼生約1,300万個で飼育を開始しました。幼生の飼育には、隣接する火力発電所の温排水を利用しています。

幼生の成長に伴い、飼育密度を調整しながら、2月下旬までに殻長2～13㎜、約143万個の種苗を生産し、地元の富津漁業協同組合に引渡しました。

種苗の一部（約5万個）は、生育しやすく、放流直後の食害が少なくなるよう、また、天然素材で自然分解しやすく水に溶けやすい、植栽ポットに収容（約300個／ポット）し、富津沖の漁場へ船上から放流しました。

種苗放流に対する漁業者の期待は大きく、近い将来、漁獲が上向き、千葉県産の親貝を用いた種苗生産が安定的にできるようになることを期待しています。

種苗生産用の親貝（殻長約15㎝）

放流準備（植栽ポットに種苗を入れる）

放流用種苗（殻長約13㎜）

船上より放流

ワカメ・ヒロメ養殖体験について

例年、南房総市では、市内の小中学生などを対象に、身近な所で行われている漁業に興味関心を持ち、理解してもらうことを目的として、ワカメ・ヒロメなど海藻の養殖体験教室を実施しています。

公社では、栽培漁業に関する普及啓発活動として、この取り組みにワカメ・ヒロメ種苗（種糸）を提供し、活用してもらってます。

今年度は、12月に富浦地区の中学生がヒロメ、白浜地区の幼稚園児・小学生がワカメの種糸を30㎝程度の長さに切り、養殖用ロープに挿み込み、漁港内で養殖を開始しました。

養殖開始から2カ月後の翌年2月には、収穫が行われ、1ｍ以上の大きさに成長したワカメ・ヒロメを見て皆さんとても喜んでいたとのこと、貴重な体験になってもらえたら嬉しいです。

ヒロメの収穫の様子

ヒロメ種糸の植え付けの様子

ノリの生産安定に向けた研究開発の取組
（千葉県水産総合研究センター）

千葉県におけるノリ養殖業は、平成27年漁期以降、伸びたノリが短くなってしまう「短縮化症状」を主な要因とした生産量の低迷が続いていました。

そこで、東京湾漁業研究所では、ノリ網にカメラを設置するなどの調査を行い、短縮化症状の発生原因がクロダイの食害であることを明らかにするとともに、対策としてノリ網をネットで囲い食害から守る「省力型防除ネット」を生産者と共同開発し、その普及に努めてきました。

さらに、令和４年度からは、生産者のさらなる負担軽減などを目的として、水中光を用いてクロダイを追い払う対策技術の開発に取り組んでいます。

また、クロダイの食害対策と併せ、千葉県水産振興公社と連携して、色が黒くておいしい新品種の開発や青混ぜ海苔の養殖技術の開発・普及、ノリ網の管理や疾病対策等の養殖技術指導などを行っています。

東京湾漁業研究所では、今後も生産現場と連携しながら、ノリの生産安定に向けて研究開発を進めてまいります。

集団でノリを食べるクロダイ

新品種の開発

漁船保険への加入について
（日本漁船保険組合　千葉県支所）

漁船保険は漁船損害等補償法に基づき、義務加入制度を根幹とする漁業者の為のセーフティーネットとして、営利を目的としない国が関与する経済政策保険です。漁船保険、漁船船主責任保険等により不慮の事故の損害に対する塡補を行いますが、この為の加入推進や事故防止対策にも取り組んでいます。

特に事故防止対策としては次のような各種事業を行っています（毎年の予算に基づきます）。

①無事戻事業は一定期間無事故であった漁船に保険料の一部を払い戻す事業で、現在２種類の無事戻金をお支払いしています。全国共通無事戻金は３年間無事故であった漁船に、支所上乗せ無事戻金は、１年間無事故であった漁船にそれぞれ純保険料（国庫負担分を除く）の一部をお支払いしています。

②船舶自動識別装置助成金交付事業は、ＡＩＳを設置している漁船の漁船保険料の一部を助成する事業で、20万円（リース事業で設置した場合は10万円）を上限とし最高５年間、純保険料（国庫負担額を除く）の10％をお支払いしています。

③整備点検事業では千葉県漁船関連工業会の協力を得て機関損傷事故や電気設備不良による火災事故等の防止のため予め定められた点検項目表に基づく点検を行った場合の費用をお支払いします（毎年予め定められた地区にて予算の範囲内で行います。また点検費用は一定額とし整備費用はお支払いしません）。

④啓発普及事業では衝突事故防止のため小型漁船が自船の存在を目立たせるため取り付ける船旗や漁船保険のロゴ入り帽子を作成し、適宜配布を行っています。

安全操業あってこその漁船漁業です。無事故で大漁をお祈り申し上げます。

漁船取付用の旗

船形漁港荷捌き施設建て替えへ　（館山市）

館山漁業協同組合では、館山市の船形漁港で老朽化した荷捌き施設の建替を進めています。建設工事は、昨年11月から着手し、令和６年４月からの本格稼働を目指します。

荷捌き施設は、消費者ニーズに対応可能な鮮度管理やＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた衛生管理機能をもつ荷捌き施設を整備する計画で、施設の構造・規模はRC造２階建て延床面積1,537㎡。

整備後は、市内各漁港で水揚げされた鮮魚をより衛生的に効率化して、集荷、選別、出荷する体制を整えることにより、安心・安全な水産物の供給を図り、経営の安定化や売上げの向上を目指します。

荷捌き完成イメージ図

スジアオノリの陸上採苗技術導入に取り組んでいます！
（勝浦水産事務所）

スジアオノリは汽水域に生息する緑藻で、秋から春にかけて夷隅川、一宮川、南白亀川の河口で養殖されています。香りがよく、外房地域のお雑煮に欠かせない食材ですが、環境の変化により、生産量は大きく減少しており、南白亀川漁協では、天然採苗よりも着実に種付けができる陸上採苗に取り組んでいます。勝浦水産事務所は、内水面水産研究所と連携してこの取組みを指導しており、本年度は需要が高まる年末までに収穫することができました。今後も技術の向上を図り、伝統あるアオノリ養殖と地域の食文化の継承に努めます。

陸上採苗の様子

網の設置